

改良点.....	1
修正.....	2
PowerExchange 10.4.1 のインストールとアップグレード.....	4
既知の制限事項.....	4
Informatica グローバルカスタマサポート.....	8

『*Informatica(R) PowerExchange(R)*リリースノート』を読み、PowerExchange 10.4.1 の改良点、修正点、および既知の制限事項に関する重要な情報を取得してください。さらに、リリースノートには、アップグレードに関する考慮事項が含まれています（該当する場合）。

PowerExchange 10.4.1 ドキュメントセットにアクセスするには、<https://docs.informatica.com> で Informatica Documentation Portal を参照してください。

改良点

以下の表に実装された拡張要求を示します。

改良点	説明
PWX-8725	z/OS システムで、PowerExchange が定義済みのすべてのプロセッサをスキャンして、System z Integrated Information Processors (zIIP) の有無を報告できるようになりました。これまではスキャンできるプロセッサの数が最大 64 個に制限されていました。
PWX-8620	PWXUMAP ユーティリティによる DTLDESCRIBE レポートの処理が高速化されて少ない CPU 時間で実行されるようになり、同時に出力も改善されました。経過した CPU 時間をレポートに表示するかどうかを指定するパラメータと、レポートの進捗表示を制御するパラメータが新しく追加されました。
PWX-8616	ユーザー定義フィールドで CheckNumData 関数を使用して、データマップ内の数値データを検証できるようになりました。無効なデータが見つかった場合は、データを有効な値に置き換えるか、フィールドをスキップするか、マップ処理を終了することができます。検証は Concat、LTrim、RTrim、Split 関数を使用したユーザー定義フィールドを含むデータマップでも実行されます。この検証により、z/OS または IBM i システムの PowerExchange リスナで Linux、Unix、または Windows と異なる結果となる可能性がある場合に、ソースデータ型からターゲットデータ型にデータがコピーされることを回避できます。
PWX-8553	Microsoft SQL Server ソースの場合、メッセージ PWX-33264 に PowerExchange ロgger (LUW 用) ログでの登録用にアーティクル ID が含まれるようになりました。

改良点	説明
PWX-8496	IBM i 上の PowerExchange リスナの場合、DTLLIST ジョブ記述に SPLFACN(*DETACH)パラメータが指定されるようになりました。このパラメータは、システムジョブテーブルが完了済みタスクのエントリでいっぱいになることを回避します。このパラメータを使用するには、SBMJOB コマンドで SPLFACN(*JOBDB)を指定します。
PWX-8495	IBM i で PowerExchange リスナを開始するときに、DBMOVER 構成ファイルの IBMI_SUPPRESS_OUTPUT 文を使用してスプールファイルの作成を抑制できるようになりました。
PWX-7175	変更データのキャプチャ元となるアクティブ REDO ログとアーカイブ REDO ログが Oracle ASM 環境にある場合、必要に応じて Oracle REDO ログのチャンクをステージングファイルに書き込むことができます。この機能により、CDC のパフォーマンスとデータスループットが大幅に向上し、ASM の CPU 使用率が下がります。ASM 外部で二重ロギングを実行する必要はありません。
PWX-2176	PowerExchange ロgger（z/OS 用）をバッチモードで実行している場合、アーカイブログデータセットの数を増やせるようになりました。追加できるアーカイブの数は、緊急リスタートデータセット（ERDS）内の空き領域によって変わります。PowerExchange ロggerがサポートするアーカイブ数と、追加できるアーカイブ数を特定するメッセージが追加されました。
PWX-730	PowerExchange タスクでテーブル内のレコードに対してデータを読み書きするときにエラーが発生した場合、エラーの説明などの診断情報が追加されたメッセージが表示されるようになりました。

修正

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
PWX-9078	PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャ処理中、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が次の内部 OCI エラーで終了することがある。 PWX-36075 OCI Error: ORA-01000: maximum open cursors exceeded
PWX-9020	PowerCenter CDC セッションが NOT NULL と定義されているターゲットフィールドに NULL 値を挿入しようとした場合、セッションは失敗せずに適切なエラーメッセージを表示してループする。
PWX-9012	PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャ処理中、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が次の DML シーケンスエラーで終了することがある。 PWX-36465 ORAD Info Mbr 3: DML sequence error: Unsupported operation ERROR: KDO_FLAG_F not on and no DML sequence in process.
PWX-8920	i5/OS セッションが、次のエラーメッセージで終了することがある。 SQL0332 - Character conversion between CCSID 1200 and CCSID 65535 not valid.

バグ	説明
PWX-8904	<p>IBM i で、N チルダ文字 (Ñ) を使用したカラム名を含むテーブルから変更データを抽出しようとする、PowerExchange CDC が次のメッセージで失敗する。</p> <p>PWX-06714 Table <i>schema_name.table_name</i> Field <i>column_name</i> missing (DB2 for i5/OS CDC)</p>
PWX-8821	<p>MSQL CAPI_CONNECTION 文の ENABLELWM パラメータを Y に設定して Microsoft SQL Server ディストリビューションデータベースの変更キャプチャ処理を実行すると、ローウオーターマーク操作の結果としてディストリビューションデータベースから処理済みのデータ行を削除する SQL 呼び出しが失敗する。dbo.MSrepl_commands テーブルの処理済みの行の一部または全部を削除できません。</p>
PWX-8806	<p>PowerExchange が値が切り捨てられたことを示す Db2 SQLCODE 値 445 に遭遇すると、Db2 for z/OS のバルクデータ移動セッションが失敗することがある。この場合、次のメッセージが発行されます。</p> <p>PWX-02004 Cursor open error. SQLCODE = 445. DSNT404I SQLCODE = 445, WARNING: VALUE <i>value</i> HAS BEEN TRUNCATED</p> <p>この問題は、以前の PowerExchange バージョン (10.2 HotFix 2 以降) で発生します。</p>
PWX-8783	<p>PowerExchange をアップグレードするときに PowerExchange がライセンスキー文字列を特定できないと、PowerExchange クライアントセッションが次のエラーメッセージで接続に失敗する。</p> <p>PWX-00000 Requested fixed text was not found.</p>
PWX-8667	<p>Informatica Data Quality または Informatica Developer を使用し、キーカラムに対する条件を指定した SQL クエリを使用して PowerExchange 非リレーショナルソースにアクセスすると、Informatica Data Quality または Developer から PowerExchange への変換でキー値の範囲が正しく解析されない。</p>
PWX-8638	<p>Db2 for z/OS 処理中に、TCAPWORK キャプチャディレクトリテーブルに無効な長さのカラムがあることを PowerExchange が検出できない。</p>
PWX-8637	<p>z/OS で、モジュールの BIND 操作で EBCDIC エンコーディングではなくサブシステムエンコーディングとみなされるために SQL PREPARE 操作が失敗する。</p>
PWX-8591	<p>DBMOVER および PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の構成ファイルに指定されている Windows のネットワークパスを PowerExchange が正しく解析せず、エラーが発生する。</p>
PWX-8578	<p>DTLUCBRG が Db2 LONGVAR カラムをスキップし、LONGVAR カラムの登録を許可しない。</p>
PWX-8002	<p>IBM i 上の PowerExchange で、ジャーナルから処理可能なファイル数が 250,000 に制限される。このリリースで上限が 345,000 に引き上げられました。</p>
PWX-7717	<p>非リレーショナルソースのデータマップをターゲットに書き込むクライアントセッションで、データマップの [Null 指定可能フィールド] プロパティを出力レコードと同じになるように設定する必要がある。[Null 指定可能フィールド] プロパティを選択した場合、固定長の出力レコードがあり、Linux、UNIX、または Windows マシンに処理をオフロードすると、パディングの問題が発生する可能性があります。</p>
PWX-7610	<p>Db2 for z/OS ECCR が Db2 ログレコードを変更データとして誤って解釈し、エラーメッセージ PWXEDM177461E が発行されることがある。問題のログレコードが DSN1LOGP と一緒に出力された場合、SUBTYPE(NOOP LOG RECORD)として表示されます。</p>

バグ	説明
PWX-2160	IBM i 物理ファイルのエイリアスを作成して Informatica Developer にインポートすると、オブジェクトのメタデータが正しくインポートされない。
PWX-1790	IBM i で、PowerExchange SNDLSTCMD コマンドに関する複数の問題が発生することがある。クライアントの IP アドレスが切り詰められ、DISPLAY ACTIVE で正しくないジョブ番号が出力されます。

PowerExchange 10.4.1 のインストールとアップグレード

完全インストールまたはアップグレードインストールについては、『*PowerExchange 10.4.1 インストールおよびアップグレードガイド*』の手順を参照してください。

既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

バグ	説明
PWX-9084	<p>PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャ処理中に、インライン LOB を含むテーブルへの DML 変更のロールバックが次のエラーで失敗することがある。</p> <p>PWX-36145 ORAD Info: + Low SABORT forced by PwxOrlTMgrUowDataEvents function @ line 1652 ASSERT expression: !NextEndOfList()</p> <p>この場合、PowerExchange ロgger は終了します。</p> <p>回避策: Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、緊急バグ修正 (EBF) があるかどうか確認してください。</p>
PWX-9052	<p>PowerExchange IMS Synchronous CDC が IMS Fast Path データベース内のデータの RBA 値を生成するときに、一意の RBA 値の作成に使用されたデータベースエリア番号を見つけるために、廃止されたフィールドを使用する。その結果、エリア番号が 255 より大きなエリアのデータに対して正しくない RBA 値が生成されます。この制限は次の条件の場合に該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - エリア数が 255 を超える IMS Fast Path データベースからデータをキャプチャしている。 - 次のいずれか、または両方の条件を満たしている。 <ul style="list-style-type: none"> - キーまたは一意キーのないセグメント、あるいはデータベース階層内でキーまたは一意キーのないセグメントの下位にあるセグメントからデータをキャプチャしている。 - データベースに対して定義された IMS データマップのいずれかで GetDatabaseKey 関数または GetIMSRBAbyLevel 関数を使用している。 <p>回避策: これらのいずれか、または両方の条件を満たしている場合、エリア数が 255 を超える IMS Fast Path データベースからはデータをキャプチャしないでください。</p>
PWX-9015	DTLUCBRG ユーティリティを使用して IDMS キャプチャ登録を作成した場合、ジョブが RC=00 で終了したにもかかわらず正しいキャプチャ登録が作成されない。
PWX-9014	PowerExchange Navigator で IDMS キャプチャ登録のパスを表示できない。

バグ	説明
PWX-8956	DTLUCBRG ユーティリティを使用して Datacom キャプチャ登録を作成した場合、対応する抽出マップに NULL の【タグ】値が含まれている。CDC セッションを実行すると、セッションは複数の読み取りエラーで終了します。 回避策: キャプチャ登録を手動で作成します。
PWX-8930	IMS ログベースの ECCR REFRESH コマンドにより、ECCR が異常終了する。
PWX-8733	PowerExchange Express CDC for Oracle で 4KB の表領域にある Oracle 19c の索引構成表 (IOT) を処理すると、変更データが失われたり破損したりすることがある。 回避策: Oracle 19c テーブルのうち、4KB の表領域にある IOT からは変更データをキャプチャしないでください。
PWX-8563	PowerExchange Navigator で Microsoft SQL Server キャプチャ登録を開いて【保存】をクリックすると、PowerExchange Navigator によって新しい Microsoft SQL Server アーティクルが作成され、登録が変更されていない場合でも以前のアーティクルが削除される。以前の SQL Server アーティクルに関連するデータが削除される。 回避策: キャプチャ登録を変更する場合にのみ、【保存】をクリックしてください。
PWX-8527	PowerExchange IMS ECCR REFRESH 操作後に IMS ログを削除すると、CDC 処理が SVC99 エラーで失敗する場合がある。 回避策: 変更キャプチャが発生するシステムで、IMSCCR および PowerExchange リスナを停止して再起動します。
PWX-8333	PowerExchange Express CDC for Oracle の実行中に、行がチェーンされた OVERFLOW テーブルを含むインデックス付きオーガナイズテーブル (IOT) でトランザクションアセンブラエラーが発生する場合がある。次のエラーメッセージが表示されます。 PWX-36465 ORAD Info: DML sequence error: Subordinate DML sequence and active DML sequence is not only kdolkr/kdolmn/kdollar.
PWX-8328	PowerExchange Express CDC for Oracle の実行中に、次の内部エラーが発生する場合がある。 PWX-36000 Error Unexpected chain sequence: unchained into chained during large row chains for compressed tables
PWX-8323	現在インストールされている DataDirect ODBC ドライバーがこの認証タイプをサポートしていないため、MySQL 8.0 CDC ソースへのアクセスには SHA256 アルゴリズムで暗号化されているパスワードは使用できません。
PWX-8186	PowerExchange for Adabas で、以前のイメージまたは制御インジケータカラムを含むスパンファイルがマッピングに含まれている場合、更新が誤って削除とマークされることがある。
PWX-8097	derive_cdct_backup コマンドを実行し、破損している PowerExchange ロgger ログレコードを処理しようとすると、セグメンテーションエラーで PWXUCDCT ユーティリティが失敗する。ユーティリティが発行するメッセージには有用な診断情報が含まれていません。 回避策: PowerExchange ロgger 構成ファイルの EXT_CAPT_MASK パラメータの値が正しいこと、ロgger ログファイルが存在することを確認します。

バグ	説明
PWX-7917	<p>非リレーショナルターゲットの PWXPC 接続定義で 【接続ごとに Pre SQL を 1 回実行】 チェックボックスをオンにすると、【Pre SQL】 接続属性で指定した SQL ステートメントが実行されない。</p> <p>回避策: 【接続ごとに Pre SQL を 1 回実行】 チェックボックスをオフにして、接続に対してその SQL を 1 回以上実行できるようにします。</p>
PWX-7202	<p>PWX NRDB ルックアップリレーショナル接続を使用する PowerCenter セッションを定義し、【PWX オーバーライド】 接続属性に TCPIP_OP_TIMEOUT および TCPIP_CON_TIMEOUT オーバーライドを設定した場合、セッションが失敗する。</p> <p>回避策: 接続文字列を使用してオーバーライドを指定します。</p>
PWX-7104	<p>z/OS システム上の ECCR に対して displaystats などの pwxcmd コマンドを発行すると、pwxcmd コマンドハンドラがハングする可能性があります。この問題は、コマンド出力の量が 4 KB を超える場合に発生します。</p>
PWX-7033	<p>PowerExchange エージェントが DBMOVER 構成ファイルでエラーを検出した場合、期待どおりに処理が終了しない。その結果、エージェントは変更データのキャプチャのために PowerExchange リスナに正常に接続できない。</p> <p>回避策: SHUTDOWN COMPLETELY コマンドを使用して PowerExchange エージェントをシャットダウンします。DBMOVER 構成ファイルを編集してエラーを修正し、PowerExchange エージェントを再起動します。</p>
PWX-6917	<p>z/OS 上の PowerExchange で、TCP/IP 接続に IPV6 プロトコルを使用すると、SMF レポートで IP アドレスが切り詰められます。接続には影響しませんが、SMF で IP アドレスが不完全になります。</p>
PWX-2031	<p>非表示カラムを DB2 for i テーブルのキャプチャ登録に追加すると、PowerExchange の抽出処理が異常終了し、非表示カラムごとに次のエラーメッセージが表示される。</p> <p>PWX-06714 Table <i>schema.table_name</i> Field <i>field_name</i> missing (DB2 for i5/OS CDC)</p> <p>このエラーは、PowerExchange が非表示カラムを検出できないために発生します。</p> <p>回避策: PowerExchange Navigator に非表示カラムを含むテーブルを登録して、非表示カラムをキャプチャ登録から選択的に省くことができるようにします。(463305)</p>
PWX-1971	<p>Linux データ統合サービスマシンで、DBMOVER 構成ファイルの LOGPATH 文で定義されたディレクトリパスのファイル権限が適切に設定されていない場合、コアダンプが発生し、Java Runtime Environment の致命的なエラーが報告される。</p> <p>回避策: ファイル権限に制限をかけすぎないようにします。755 の権限で十分です。(459102)</p>
PWX-1922	<p>PowerExchange Express CDC for Oracle が、Exadata Hybrid Columnar Compression (EHCC) を使用するテーブルでのダイレクトパスロード操作をキャプチャしようとするると異常終了する。</p> <p>回避策: EHCC を使用するソーステーブルがある場合は、ダイレクトパスロード操作のキャプチャを有効にしないでください。PowerExchange Express CDC for Oracle 構成ファイルの OPTIONS 文で SUPPORT_DIRECT_PATH_OPS パラメータの N のデフォルト設定を使用します。(451128)</p>

バグ	説明
PWX-1827	<p>PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャ処理は、ソース索引構成表 (IOT) を変更して、オーバーフローテーブルスペース、マッピングテーブル、または INCLUDING <i>column_name</i> 句を追加する場合、次のエラーメッセージで終了します。</p> <p>PWX-36000 ORAD: Internal error TableImpl::UpdateTAB unexpected condition: m_ObjId (<i>object_id</i>) !=rB.obj (<i>object_id</i>) in module PwxOrlDictImpl:10116.</p> <p>この場合、行のカラムデータが失われることがあります。</p> <p>回避策: ターゲットテーブルを再マテリアライズし、CDC セッションをコールドスタートして失われたカラムデータをリカバリします。(438982)</p>
PWX-1752	<p>PowerExchange Express CDC for Oracle では、IOT に対するクイックマルチインサート (QMI) 操作が適切に処理されません。QMI を生成する次のタイプのアクションを実行する場合、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows 用) は戻りコード 9980 で異常終了することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソース IOT をロードする SQL*Loader の使用。 - IOT をロードする Oracle Data Pump Import ユーティリティ (impdp コマンド) の実行。
PWX-1672	<p>PowerExchange ナビゲータでの IMS 複合テーブルソースに対する CAPXRT データベース行のテストで、PowerExchange ロgger (z/OS 用) にソース用のデータが含まれる場合でも、変更が返されない。この問題は、以前の登録と同じタグ名を持つソース用にキャプチャ登録が再作成され、新しい登録に追加の IMS セグメントが含まれる場合に発生します。結果として、PowerExchange は新しい登録を PowerExchange ロgger ログファイルのデータにマップできません。</p> <p>回避策: ありません。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。(409991)</p>
PWX-1521	<p>範囲パーティション化を使用する DB2 for Linux, UNIX, and Windows ソーステーブルから変更データをキャプチャし、パーティションを追加、接続、または切断する DDL 操作がそのテーブルで実行される場合、データ消失が発生し、ターゲットでデータが破壊される場合がある。</p> <p>回避策: ソーステーブルでパーティションを追加、接続、または切断する DDL 文を発行しないでください。ソースでこのような DDL 操作を実行する必要がある場合は、CDC 処理を開始する前に、PowerExchange バルクデータ移動か別のツールを使用して、ソーステーブルとターゲットテーブルを同期します。(395055)</p>
PWX-1387	<p>PowerCenter を使用して PowerExchange ターゲットに更新を書き込み、更新に失敗した場合、PowerCenter セッションログのロード要約に、更新された行数として正しくない数が表示される。例えば、ターゲットレコードが存在しないために、更新が失敗する場合がある。(375568)</p>
PWX-1271	<p>「ß」やウムラウトのある母音など、特定のドイツ語文字を含むコピーブックを PowerExchange データマップにインポートするとき、これらの文字を含む行がインポートされない。</p> <p>回避策: ドイツ語文字がコメントにある場合、そのコメントを編集し、それらの文字を削除または置き換えます。(350646)</p>
PWX-1184	<p>PowerExchange ナビゲータでデータマップを作成するとき、PL/I コピーブックをインポートし、行シーケンス番号を含むカラム範囲を定義する【先頭】および【末尾】値を入力すると、PowerExchange ナビゲータが間違って「NEW_RECORD__」レコードを追加することがあり、作成に失敗するか、予想外の結果が生成される。</p> <p>回避策: PL/I コピーブックをインポートする場合は、カラム範囲を定義しないか、または行シーケンス番号を含むカラム範囲のデフォルトをそのまま使用します。(331003)</p>

バグ	説明
PWX-1143	PowerExchange Navigator から z/OS ソースの PL/1 コピーブックをデータマップにインポートすると、インポートに成功してもインポートレコードが作成されない。
PWX-825	パスワード保護された Adabas データソースを含み、CAPXRT アクセス方式とオフロード処理を使用する CDC セッションを実行する場合、セッションは失敗する。(257540)

注: 現在のバグ追跡システムでは、「PWX-」プレフィックスで始まるバグ ID が使用されます。以前の追跡システムは、6 つの数字で構成されるバグ ID を使用していました。以前のリリースから引き継がれている既知の制限については、PWX-*nnnn* バグ ID が設定されていますが、以前のバグ ID を説明の最後に括弧で囲んで記してあります。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。